

## 10 貧困家庭生徒への学費支援



哲太郎

学費支援

貧困家庭生徒  
約300人

大甲公学校の授業風景 昭和15年(1940) 撮影  
「大甲鎮志 (提供呉永芳)」引用



石墨と石板 (参考例)



最初の国産鉛筆

哲太郎は書道にすぐれており、書道の授業も受け持っていました。多くの生徒が毛筆や習字紙、硯、墨を買うお金がないことを知るや、哲太郎は「材料はすべて自分が用意する」と宣言し、生徒たちを学び舎に呼び戻しました。また、ある時一人の生徒が足に釘が刺さり赤く腫れあがり授業に出て来れないと聞くと、すぐさま生徒の家に行き、その生徒を背負って登校したのです。もし家が貧しくて勉学を続けられない生徒がいれば、すぐさま学費を提供しました。支援を受けた生徒は開校以来25年間で300人以上に及びます。

哲太郎は家庭訪問時には必ず文房具(石筆時代は石筆、鉛筆時代は鉛筆)を携帯し、生徒に贈ったといいます。毎月の給料の大半を生徒のために充てました。